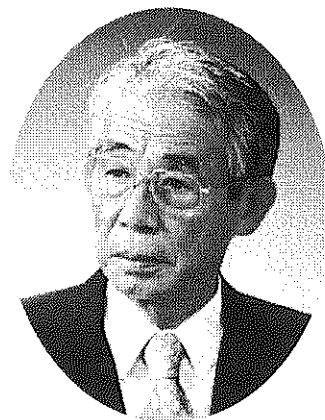
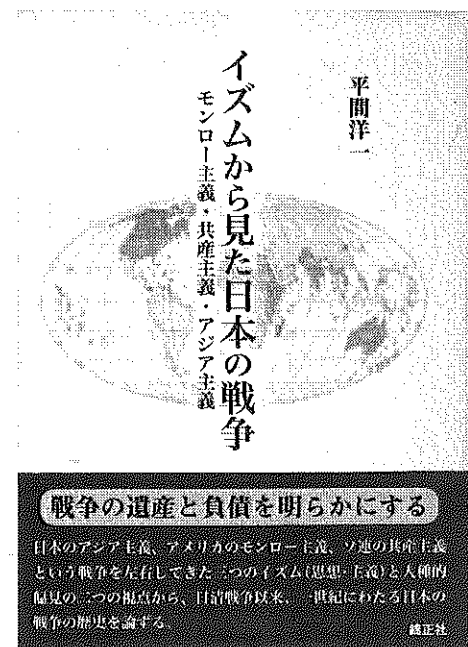


「イズムから見た日本の戦争
モンロー主義・共産主義・アジア主義」



元海将補・防衛大学校教授
平間 洋一
Hirama Yoichi



戦争の遺産と負債を明らかにする
日本のアジア主義、アメリカのモンロー主義、ソ連の共産主義
という戦争を左右してきた二つのイズム(思想・主義)と人種的
偏見の二つの視点から、日清戦争以来、世紀にわたる日本の
戦争の歴史を論ずる。 錦正社

「イズムから見た日本の戦争 モンロー主義・共産主義・アジア主義」
出版社：錦正社 2014年6月 本体4800円
ISBN:978-4-7646-0338-7

本書の視点と狙い

小原台クラブの皆さまに霊界に住み、時々現世に舞い戻る「高貴高霊者」の平間が、このたび上梓した拙書を紹介します。この本では日本のアジア主義、アメリカのモンロー主義、ソ連の共産主義(コミンテルン)というイズム(思想・主義)を中心に、日清・日露・第一次、第二次世界大戦から冷戦と、日本が戦った戦争の百年の歴史を論じました。

イズム(思想・主義)からの分析
アメリカのイズムは「神の摂理(マニフェスト・デステイニー)」を信じ、無知迷妄な蛮族にキリスト教の福音を伝えることを天命とする天啓宗教観と人種の優位性、さらに自己の領域への他者の侵入を排除し、覇権を確立するモンロー主義が、米西戦争で植民地フィリピンを確保すると、西部開拓の「西へ西へ」の陸上の拡張がマハン大佐の「シーパワー」は国家に威信と富をもたらす」との主張で海洋に拡大され、さらにタフト大統領により大海軍主義とモンロー主義が結びつけられ、清国の「領土保全(民族自決)」「門戸開放」「機会均等」のスローガンを掲げ、資本主義・帝国主義(植民地獲得)を奉じ強力なドル外交で中国大陸へと進出してきた。

また、ソ連は第三インターナショナルを組織し、ソ連政府と一心同体のコミンテルンを執行機関として、世界中の国や民族を民主集中のコミンテルンの指揮下に入れようとスラブ・メシア教的国際共産主義を掲げて中国大陸へと進んできた。

一方、日本は天照大神(天皇)を家長とした「八紘一宇」の大家族主義的アジア主義を掲げて対抗した。このアジア主義は西欧列強がキリスト教の価値判断を「国際的文明」と考え、異教徒のイスラームや仏教を思想的に軽視し、人種的・社会的差別感を持つていたことから、ポーランドやルーマニアからアラブなどのツラン語民族をも含む大アジア主義(興亜主義)へと深化し、欧米の帝国主義国家群と戦うことになってしまった。第二次世界大戦をイズムの視点で見るとアジア主義がアメリカの大海軍モンロー主義(原理主義)と、ソ連・中国の共産主義(コミンテルンと北京テルン)に挟撃されて敗北したといえないであろうか。

地球儀的長期的視点からの分析

日本では戦争を語る場合、日米関係とか日英関係とかの二国間関係を論じる傾向が多いが、本書では日米英中独ソなど多国間関係の視点から見ることにした。また、歴史に必要なのは西洋史とか東洋史などの区分を外し地球儀的に、また時

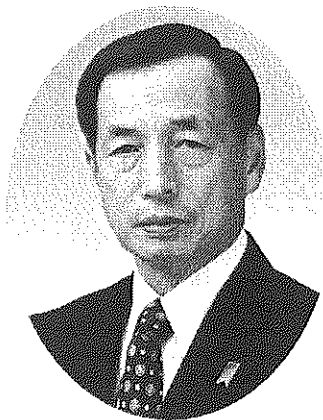
間的には一世紀という尺度で見ることではないでしょうか。日本が日露戦争に勝つとアメリカの黒人指導者W・E・B・デュボイスが黒色、褐色、黄色の人種が一斉にめざめて地球規模の人種戦争を挑む日がいつか来るだろうと予告したが、第一次世界大戦が終わると日本は有色人種として初めて国際連盟の常任理事国となり、パリ講和会議に人種平等法案を提出し、この日本の行為がアラブ、特にアフリカの有色人種に人種平等の動きを加速させた。しかし、反植民地・民族独立闘争は尽く抑圧され、第二次世界大戦まで有色人種は欧米の資本家や土着の一部の資本家、地主などのあくどい搾取を受け悲惨な生活を余儀なくされていた。しかし、大東亜戦争の初期の日本軍の快勝が、一般民衆を覚醒させ日本軍の作り出した政治的軍事的空白を利用して立ち上がり、現在のように多数の民族国家を誕生させたのである。

ソビエト社会主義連邦共和国からロシア共和国に国名が変わると、革命の指導者レーニンが「殺人者」に変わり銅像は

引き倒され、かつては「世界史の新しい黎明」と云われたロシア革命も、「ロシアの発展を妨げた歴史的惨事」と評価が逆転した。そして「赤い疫病」が有毒な種をまいたところでは、騒動が起こり、内戦が始まり、血が流され、私有財産が暴力的に奪われ、個人に対するテロと暴力が増え、ロシアの歴史家により「赤い疫病」は世界の至る所で嫌悪と憎しみを招いた」と書き変えられた。このように歴史は長期的なスパンで地球儀的に見ないと理解できないのではないであろうか。

謀略工作の分析

第一次世界大戦では国家意識に目覚めた前線と銃後も巻き込み、さらに交戦国が植民地や中立国などから兵士や労働者、戦争資源を確保しようと全世界を巻き込んだため、プロバガンダ(綺麗な言葉を使えば「ソフトパワー」)の情報工作が激しく展開された。プロバガンダは暗示を受けやすい一般大衆の群集心理を利用し、軍国主義のドイツに対する民主主義の連合国の戦争、戦争後半からは帝



第29代航空幕僚長
田母神 俊雄
Tamogami Toshio



出版社：祥伝社 2014年3月
本体 1728円
ISBN：978-4396614881

「日本は「戦後」を脱却できるか」

真の自主独立のために(単行本)

日本の最重要課題は、今やTPPでも消費増税でもなく、防衛政策と云っている。安倍内閣は憲法改正、国防軍の創設、国家安全保障会議(日本版NSC)の設

国主義の西列強対民族解放の共産主義のレーニン政権などとイズムを武器とした戦いが展開された。日本の学会では謀略論を論じることがタブー視されているが、本書では批判覚悟で謀略活動にも光を当てた。

本書の第七章「コミンテルンから見た先の大戦」を読めば、日米開戦前の八ヶ月におよぶ「日米和平交渉」めぐる英米ソ中の情報機関や、コミンテルン、チャイナハンドといわれた親中国派の間に展開された謀略活動の凄まじさが理解され、第八章第八節「中華人民共和国の建設とアメリカ」などを読めば、謀略活動を無視した近現代史、特に中国が絡む日中間係史は語れないことや、謀略史研究の重要性が理解できるのではないであろうか。

おわりに

おかげさまで学術書でありながら「近代史研究の基礎文献」とか、中国や韓国の「歴史認識戦争」に対処する多くの示唆を与える書とか、「二〇世紀の思想を研究する者の北斗七星、確かなる羅針

盤」などのお褒めの言葉を戴いていますが、老化して難聴になったのか批判は全く聞こえて来ません。学友は「平間さん、一世紀にわたり日本と米英中独ソからインドやモンゴルまでの歴史を、全部研究している学者はいないので批判できないではないですか」というが、本当なのでしょう。値段は税込で5384円と高いですが、日清戦争から冷戦までの歴史が書かれており、精密な索引も付いているので、関心がある歴史的事件「満州国建国」「盧溝橋事件」「田中上奏文」「上海事件」「南京事件」「従軍慰安婦」などを個々に索引可能で「戦争歴史事典」としても使えるし、それに書くのに8年もかかったのだから、内容の割には安いのではないのでしょうか。小原台クラブ会員の皆さまには「たたく売り」ではないですが、税・送料込み4800円とお安くしておきますので、小原台クラブ事務局にお申し付けください。

(ひらま よういち 略歴)
防大1期 海上 電気工学 ESS部

置、防衛大綱の見直し、「日米防衛協力のための指針」の改定など、矢継ぎ早に新方針を打ち出している。

これらの諸政策が実現すれば、単に防衛政策のみならず、戦後長く堅持されてきた「軽武装・経済優先」を基軸とするいわゆる「吉田ドクトリン」を脱却することになり、日本の国家としてのあり方、「国のかたち」を根本的に変える。

この「戦後レジームからの脱却」が、日本の真の自主独立として結実するか、はたまたTPP参加と相まって、軍事・経済両面でのさらなる日米一体化に陥るのか、今まさにその正念場にある。「拒否できない日本」以来、経済・通商分野で日米関係につき警鐘を鳴らしてきたノンフィクション作家(関岡英之)と、東京都知事選で61万票を獲得した防衛・軍事分野の専門家(田母神俊雄)が見識を活かし、目下の歴史的転換の意義を世に問う。



出版社：廣済堂出版 2014年8月
本体 1512円
ISBN：978-4331518632

「誇りある日本の歴史を取り戻せ」(単行本)

8月15日が近づくと、中韓両国によって毎年のようにぶり返される靖国問題。「戦前の日本はいい国だったと言ったらクビになった」と言う元航空自衛隊幕僚長と、その田母神氏に多大な影響を与えた保守論客の雄が、日清・日露戦争から大東亜戦争までの歴史をわかりやすく振り返り、「日本が辿った道はこういうものであり、よって東京裁判史観や中韓の歴史認識は誤りである」と、リレー対論によって歴史認識を問いただす。

GUN

BAR
GINZA

since 2008

ROOM

Bar GUNROOM

東京都中央区銀座8-2-13 Jビル4階

営業時間 17時~26時 日祝定休

電話 03-3572-3739

伊奈貞信(海上要員45期)

小原台 Obaradai Club クラブ 会報

第38号
2014.12

小原台クラブ講演会

正しい歴史観を持ち、
中国・韓国の対日圧力に
堂々と対処しよう

第29代航空幕僚長

田母神 俊雄

永田町だより

安全保障政策議論を深める
ために

参議院議員 宇都 隆史

政策判断の岐路

南満州鉄道の経営権

小原台クラブ副会長 河野 美登

ビジネスファイナリスト

父ふたり、ふたりの将軍

第24代陸上幕僚長 富澤 暉

ビジネス点描

化学会社とシェール革命

株式会社クレハ 執行役員 PGA事業部長 西畑 直光

平成の小原台

変わりゆく防衛大学校

防衛大学校 建設環境工学科 教授 大野 友則

小原台クラブ会報

第38号 / 2014年

小原台クラブ会報

○第38号 / 2014年(平成26年)12月発行

○発行人 / 大段 和廣

○編集人 / 及川 正稔 山田 耕平

○小原台クラブ事務局 / 〒162-0042 東京都新宿区早稲田町12 シャンプール早稲田301

電話 03-6457-6097

FAX 03-6457-6098

メール: info@obaradaiclub.com

WEB: http://www.obaradaiclub.com

○印刷 / 株式会社 創志企画

本誌記事の無断転載・複製を禁じます。
著作権はすべて小原台クラブにあります。